

令和4年度 ロームシアター京都 指定管理業務自己評価書

1 業務実績及び概要

令和4年度のロームシアター京都は、新型コロナウイルス感染症の対応が日々変化する中であっても、文化芸術の創造・発信拠点としての役割を果たしていくために令和2年度に策定した「ロームシアター京都における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を改定しながら、安全・安心な環境のもとで公演を実施・鑑賞でき、また、プログラムに参加できる体制の整備を図りました。

ガイドラインでは、施設管理者としてロームシアター京都が実施する感染防止対策を提示することはもとより、公演主催者・関係者が考慮すべき具体的な注意点を明記するなど、感染拡大の防止に努めながら公演を実施するための方策を示しました。

ロームシアター京都は、「市民に愛され、交流の場となるホール」「質の高い舞台芸術や、新たな文化創造の場として世界文化都市・京都を発信する「文化の殿堂」としての存在感をさらに発揮して、多彩な自主事業の展開のほか、貸館事業においても公演が回復しつつある興行プロモーター等との調整を図りながら多くの方にご利用いただき、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくことが大切であると考えています。

また、自主事業においては、コロナ禍からの舞台芸術活動の回復を目指し、より一層、「世界市民のための劇場」になるべく、劇場文化の創出に努めてまいりました。

令和4年度のラインアップテーマは「旅」とし、新しい出会いや発見、そこに行くまでの過程やリサーチ、そして何かを探求すること、チャレンジなど「旅」から想起するいろいろな言葉や意味合いを込めました。国内外の新鋭からそのジャンルを代表するようなアーティストまで多彩なプログラムを通して、観客をさまざまな「旅」に誘いました。また、令和2年度・令和3年度に中止となった事業の待望の延期公演も実現することができました。

2 主催・共催事業に関すること

令和4年度は、38事業117公演18講座を計画し、うち1事業1公演については入国ビザの取得に関する予期せぬ事情によって、開催を見送らざるを得なくなりました。

自主事業の総入場者数は52,991名でした。

自主事業（主催事業・共催事業）は、これまでと同様に「つながり（交流）」を全事業の包含する要素として位置づけ、「つくり（創造）」、「育て（育成）」、「活かす（生活）」有機的なサイクルを作り上げました。あわせて、賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により、賑わいの創出や身近に文化芸術に親しむための取組を行いました。

（1）文化芸術の創造及び振興に関する業務

ア 交流事業

途絶えていた海外アーティストによる上演は、ギリシャ、チェコ、フランスなどから注目作が来日しました。ディミトリス・パパイオアヌー、アルファ劇場、カンパニーXYの招聘といった世界水準の演目によって、「文化の殿堂」としての存在感を発揮し、待ち望んだ海外との交流事業の再開をはかりました。ディミトリス・パパイオアヌーの最新作は、多方面から注目を集め、予想以上の観客が殺到しました。また、カンパニーXYは、晴れた秋空の下、野外でのパフォーマンスも併せて実施し、多

くの観客から歓声をいただきました。残念ながら、クロノス・クアルテット《ブラック・エンジェルス》&《ディファレント・トレインズ》に関しては、入国ビザの取得に関する予期せぬ事情によって、開催を見送らざるを得ませんでした。

「那覇文化芸術劇場なは一と」との共同企画「宮古・八重山・琉球の芸能」（令和3年度からの延期公演）、「りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館」「愛知県芸術劇場」「荘銀タクト鶴岡」との共同製作「Noism×鼓童「鬼」」等の実施により、全国の公立劇場との連携を強化することができたほか、京都国際舞台芸術祭といった国内外の交流と地域の賑わいを創出する事業も好評裡に終了することができました。

イ 創造事業

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開しました。これまでも話題作を生み出してきた「レパトリーの創造」では、松田正隆による旧作と新作の連続上演を行いました。令和3年1月に発表した「シーサイドタウン」と、その延長線上にある新作「文化センターの危機」は、共に松田の故郷・長崎を彷彿とさせる海辺の地方都市を描きました。

音楽プログラムでは演出家の白井晃を迎えて、京都市交響楽団の更なる魅力を引き出すコンサート「Oblivion（オブリビオン）～失われた時間と音楽、そして新たな始まりのために」をはじめ、実験的な試み「Sound Around 002」の実施などこれからの「音楽」を考える機会を創出しました。令和3年度事業で製作した、市原佐都子による「妖精の問題 デラックス」の久留米公演〔主催：久留米シティプラザ（久留米市）〕も実施し、ロームシアター京都発のプロダクションを他地域にも届けました。

ウ 育成事業

開館当初より継続する「小澤征爾音楽塾」や「新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室」の充実に加え、「劇場の学校プロジェクト」、「リサーチプログラム」などの次代を担う若者を育成する事業を行いました。令和3年度から開始した「芸能の在る処～伝統芸能入門講座～」においては、「歌舞伎」、「京舞」、「宝塚」のジャンルを取り上げ、観客の開拓や育成・普及啓発に取り組みました。京都芸術センターと協働して行う創造支援プログラム「KIPPU」や京都市ユースサービス協会と連携する劇場の仕事体験「未来のわたし - 劇場の仕事 - 」によって、将来的な人材育成に寄与する事業も行いました。

エ 生活事業

夏の「プレイ！シアター in Summer」、秋の「OKAZAKI PARK STAGE」と毎年好評の恒例イベントを中心に、子どもから大人まで劇場を満喫し、気軽に舞台芸術を体験できる催しを開催しました。また、地域文化会館5館と協働し、小さな子どもとその保護者向けの公演「およげ！ ショピニアーナ」（振付：中間アヤカ）を上演し、生活と密着したプログラムを展開しました。また、京都市立芸術大学と協働し、「ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らい、いろいろ焼いて食べる会」を実施しました。ロームシアター京都としては、初めて本格的にボランティアスタッフを募り、運営に参画いただきました。劇場と生活を結びつける機会の創出を目指し、オープンスペースの活用、ホールを

飛び出して行く事業などを通して、京都・岡崎地域の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に努めました。

【主な事業（ジャンル別）】

● 演劇

- ・宮古・八重山・琉球の芸能
- ・レパトリーの創造 松田正隆「シーサイドタウン」、「文化センターの危機」
- ・プレイ！シアター in Summer 2022<ステージプログラム>
「快傑ゾロ」アルファ劇場 from チェコ共和国
- ・第360回～第364回 市民寄席
- ・ノイマルクト劇場&市原佐都子/Q「Madama Butterfly（蝶々夫人）」
- ・木ノ下歌舞伎「桜姫東文章」
- ・神里雄大/岡崎藝術座「イミグレ怪談」
- ・村川拓也「ムーンライト」
- ・パルコ・プロデュース2022「セールスマンの死」
- ・COCOON PRODUCTION 2022「ツダマンの世界」



● 舞踊

- ・Noism×鼓童「鬼」
- ・ディミトリス・パパイオアヌー「TRANSVERSE ORIENTATION」
- ・プレイ！シアター in Summer <ステージプログラム>
「タッチ ～ふれる、あそぶ、おどる～」from イングランド
- ・カンパニーXY with ラシッド・ウランダン「Möbius/メビウス」



● 音楽

- ・新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2022
G.プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」全2幕
- ・シアターオーケストラ コンサート Oblivion～失われた時間と音楽、そして新たな始まりのために
- ・Sound Around 002 出演：正直
- ・小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX
G.プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」全4幕
- ・京都市立芸術大学音楽学部創設70周年記念・移転整備プレ事業
「オーケストラ協演！in ロームシアター京都」



● 総合／参加する劇場へ ～学芸・教育プログラム

- ・京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT 2022
- ・ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム “KIPPU”
- ・ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業「およげ！ショピニアーナ」
- ・プレイ！シアター in Summer 2022<オープンデイ>
- ・岡崎活性化企画 OKAZAKI PARK STAGE 2022
- ・ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らい、いろいろ焼いて食べる会
- ・舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～
- ・劇場の学校



(2) 賑わいスペースに関する業務等の実施状況

「京都会館賑わいスペース事業プラン」を推進するため、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、市民や観光客の皆様の憩いの場となるパークプラザを中心に、ブック&カフェ、レストラン、キオスクといった常設の店舗が高い評価を得て運営されるよう努めました。

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響によりパークプラザ3階共通ロビーに配置している椅子を間引き、営業時間の短縮も継続しましたが、生活文化等に関わる様々な文化事業をコロナ禍以前のように合計63回実施しました。その結果、入店者数はコロナ禍以前と同等となりました。

賑わいスペース事業 店舗等の概要（通常）

事業内容	店舗名	営業時間
ブック&カフェ (パークプラザ1階)	京都岡崎 蔦屋書店 スターバックスコーヒー	午前8時から午後10時
レストラン (パークプラザ2階)	京都モダンテラス	午前8時から午後11時
キオスク (サウスホール1階 ホワイエ内)	ファミリーマート	午前8時から午後10時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ3階共通ロビー内)	BOOK & ART GALLERIA	午前9時から午後7時 (開館時間等に応じて変更)

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、本欄記載の時間から一時的に変更し営業しました。

入店者数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入店者数の実績値	1,708,053名	1,720,295名	1,125,605名	1,266,065名	1,732,889名

(3) 市内劇場文化の活性化に資する業務

上記【主な事業】の「● 総合／参加する劇場へ ～学芸・教育プログラム」にも記載のKIPPUにより、創作や上演の場の提供や制作業務の支援等による若手アーティストの発掘や育成等を行うことで、市内劇場文化の活性化につながる取組を進めており、今後もこうした形で継続していくことが重要と考えています。

(4) その他施設の目的を達成するために必要な業務

ア 広報関連

主催事業ラインアップ・リーフレット、催物カレンダーの作成、ホームページやSNSの運用、賑わい事業者と連携した取組、また、様々な広報媒体への働きかけ等により、効果的な情報提供や話題作りを行い、劇場への期待感を高めるとともに、施設の認知度を高める取組を引き続き進めました。

イ 助成制度の活用等による事業の充実

企業からの協賛金や以前より獲得してきている文化庁等の助成金のほか、新型コロナウイルス関連の助成金制度にも積極的に申請し、各種助成金獲得へ向けた取組強化を行いました。また、平成26年度に開始した賛助会員制度（サポーター・パートナー会員）については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため営業活動を控えるなど厳しい状況ではありましたが、会員の更更新手続きの改善や2年ぶりに事業報告会を開催するなど会員に継続してご支援いただけるよう努めました。

助成金等

対象事業名	助成団体等
新国立劇場・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	(公財) ローム ミュージック ファンデーション
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（公演）	文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（人材）	文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（普及）	文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会
ARTS for the future! 2	文化庁
アートキャラバン事業委託費	文化庁／(公社) 日本芸能実演家団体協議会
アートキャラバン事業委託費	文化庁／(公社) 全国公立文化施設協会
Noism × 鼓童	一般財団法人地域創造
カンパニーXY	公益財団法人JKA

協賛金等

対象事業名	助成団体等
新国立劇場・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	ローム株式会社
プレイ！シアターin Summer 2022	ローム株式会社
ロームシアター京都×京都市交響楽団 シアターオーケストラ・コンサート Oblivion (オブリビオン) ～失われた時間と音楽、そして新たな始まりのために	日東薬品ホールディングス株式会社
レパトリーの創造 松田正隆 海辺の町 二部作 「シーサイドタウン」 「文化センターの危機」	京都信用金庫

賛助会員数と寄附金額

会員区分	平成30年		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
スペシャルパートナー (法人)	2件	100万円	2件	100万円	2件	100万円	2件	100万円	2件	100万円
パートナー (法人)	28件	290万円	28件	290万円	20件	210万円	17件	180万円	17件	180万円
スペシャルパートナー (個人)	36件	176万円	36件	176万円	33件	218万円	28件	149万円	16件	103万円
パートナー (個人)	46件	92万円	46件	92万円	52件	104万円	48件	96万円	50件	100万円
合計	112件	658万円	112件	658万円	107件	632万円	95件	525万円	85件	483万円

ウ 地域活性化等

「(2) 賑わいスペースに関する業務等の実施状況」にも記載の店舗の運営やイベントの開催等、また、CCCが開設している京都岡崎 蔦屋書店のWEBサイト等による情報発信などにより、岡崎地域の魅力向上に向けた取組を進めました。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会とも連携し、同協議会が発行する「京都岡崎コンシェルジュ」への催し情報の提供等を継続して行ってきました。

また、ローム・スクエアを会場に、地域の団体等とも連携し開催した催し「OKAZAKI PARK STAGE」では、企画内容や事業形態を工夫して実施し、地域の活性化にも寄与できたと考えています。

3 施設管理運営に関すること

(1) 概要

令和4年度においては、ホール施設等を利用した催しの開催にあたっての新型コロナウイルス感染症拡大予防策も緩和の傾向にあったことから、新型コロナウイルス感染症を起因とする開催自粛や催しをキャンセルされることがほぼなくなり、利用日数や利用料金収入といった実績は概ねコロナ禍前に近い結果となりました。

ロームシアター京都が策定したガイドラインを改定しながら運用し、感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫しました。さらにサーモグラフィー等の機材・設備等の適切な運用のほか、場内サービス等についても、感染の状況を踏まえた運用の見直しを積極的に行い、安全、安心で快適な劇場空間を提供しました。なお、ガイドラインの改定にあたっては、令和3年度に設置した「ロームシアター京都環境衛生スーパーバイザー」と綿密に連携を図ることによって、効果的な対策や迅速な対応につなげることができたと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、公演等の活動を休止した団体及び個人等に対し、令和4年11月から令和5年2月にかけて、京都府文化団体等活動継続支援事業を活用した公演を募集し、施設利用料金等について京都府が負担とする活動支援を実施しました。

日数利用率

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
メインホール	利用率(日数)の目標値	83 %	82 %	81 %	82 %	82 %
	利用率(日数)の実績値	81 %	74 %	49 %	63 %	82 %
	目標達成度	97.6 %	90.2 %	60.5 %	76.8 %	100 %
サウスホール	利用率(日数)の目標値	82 %	81 %	78 %	76 %	76 %
	利用率(日数)の実績値	80 %	77 %	46 %	63 %	73 %
	目標達成度	97.6 %	95.1 %	59.0 %	82.9 %	96.1 %

ノース ホール	利用率(日数)の目標値	75 %	73 %	76 %	74 %	74 %
	利用率(日数)の実績値	72 %	77 %	59 %	67 %	78 %
	目 標 達 成 度	96.0 %	105.5 %	77.6 %	90.5 %	105.4 %

入場者数

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入 場 者 数 の 目 標 値	510,000名	510,000名	520,000名	330,000名	330,000名
入 場 者 数 の 実 績 値	497,784名	478,875名	76,076名	210,564名	332,861名
目 標 達 成 度	97.6 %	93.9 %	14.6 %	63.8%	100.9%

利用料金収入額

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用料金収入の目標値	328,000千円	343,149千円	351,389千円	346,296千円	339,994千円
利用料金収入の実績値	333,812千円	337,152千円	136,254千円	274,933千円	343,413千円
目 標 達 成 度	101.8 %	98.3 %	38.8 %	79.4 %	101.0 %

令和4年度のジャンルごとの月別入場者数

月	音楽	舞踊	演劇	学会・会議	講演	その他	計
4月	19,072名	2,213名	—	2,182名	870名	1,762名	26,099名
5月	10,290名	780名	1,865名	370名	1,546名	3,603名	18,454名
6月	25,850名	—	862名	400名	261名	3,556名	30,929名
7月	16,168名	3,877名	3,602名	225名	950名	5,290名	30,112名
8月	16,244名	3,400名	4,947名	372名	—	2,334名	27,297名
9月	11,189名	1,501名	8,107名	300名	1,200名	8,283名	30,580名
10月	13,521名	1,581名	6,761名	650名	1,237名	360名	24,110名
11月	18,893名	2,534名	4,125名	1,530名	2,250名	13,630名	42,962名
12月	8,970名	657名	16,604名	586名	667名	1,668名	29,152名
1月	11,062名	5,402名	574名	—	1,350名	3,292名	21,680名
2月	5,281名	500名	3,326名	600名	1,700名	5,355名	16,762名
3月	13,148名	1,098名	—	—	877名	925名	16,048名
計	169,688名	23,543名	50,773名	7,215名	12,908名	50,058名	314,185名

※「令和4年度のジャンルごとの月別入場者数」は、メインホール・サウスホール・ノースホールの利用に係る入場者数であり、自主事業は財団調べ、貸館事業は利用者（主催者）調べ。

※年間入場者数332,861名には、上記入場者数314,185名に加え、会議室及びレッスン室1,308名
ローム・スクエア及びその構内地17,368名を含む。

(2) 施設等の利用許可に関する業務

京都市京都会館条例及び同条例施行規則に基づき、施設の利用許可や利用料金の徴収などを行いました。令和5年度に予定している料金改定に伴う利用者への周知も適切に進めました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等のため、施設利用を中止した利用者に対する利用料金の還付等についても行いました。

ホール利用受付件数

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
舞 台 芸 術 公 演	312 件	335 件	275 件	335 件	371 件
そ の 他 催 し	163 件	134 件	65 件	124 件	166 件
合 計	475 件	469 件	340 件	459 件	537 件

(3) 舞台運営に関する業務

より良い催しの実現のため、舞台技術スタッフが、貸館担当スタッフとともに、施設利用者へのサポートや安全管理等を実施しました。日常的な機材メンテナンスや保守業者による点検作業等を計画的に実施したほか、舞台機構、照明、音響などの専門スタッフが、適切な管理や支援、トラブル対応等により、催しが安全な状況で確実に開催される状況を適切に維持しました。

(4) 場内サービスに関する業務

ホールの催しにおいて、お客様と直接接し、入場管理、安全管理等を行うレセプション業務については、その人数や配置等について、施設利用者（主催者）とも細かい調整の上、実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、レセプションスタッフが身に着けるものや場内の案内表示等の物理的対策とともに、ご案内方法等の工夫も行い、安全で快適に過ごしていただけるよう努めました。

チケット販売のほか、来場者へ施設や公演の案内等を行っている総合案内においては、催しに応じた案内方法の工夫等を行いました。

なお、チケットについては、インターネットを活用した販売も行っており、インターネット経由で予約し、コンビニエンスストアでの発券を選択される方が多い一方、電話による予約やお問い合わせをされる方も多く、丁寧な対応を心がけました。新型コロナウイルス感染症による公演中止等に伴うチケット料金の返金等についても、貸館利用者からの受託販売分も含め、丁寧に対応してきました。また、利便性の向上や感染拡大防止を目的に、新たに電子チケットを導入しました。スマートフォンやパソコンにQRコード（二次元コード）を発行し、読み取り機にQRコードをかざすだけで入場できるチケットとして、令和4年度から自主事業を対象に取組を始めました。

なお、メインホールとサウスホールに設置されたビューフェカウンターについては、原則として、営業を中止しましたが、類似施設の事例なども調査し、令和5年度の再開に向けて試行的に数日間営業しました。

(5) 施設設備及び備品の管理

これまでの運営で把握してきた建物の特徴や設備の具体的な特性等に基づき、利用状況や季節変動等を踏まえた日常の設備運用や保守点検、備品管理等を工夫し、安全で効率的な施設運営に努め

ました。特に、電気設備や舞台設備、空調、楽器（ピアノ）といった、施設の運用に重大な影響を与える設備等については、予防保全の視点から、予め定期点検の日程を確保し実施しています。修繕等が必要となった場合には、速やかに対応するとともに、消耗品・備品等の管理も確実に行っていきます。その他の各種管理業務や各種有資格者の配置等についても計画通りに実施し、安心して利用できる施設環境を適切に維持しました。

令和4年度の主な修繕等実施状況

内容
漏水調査
メインホールピンスポット整流器修繕
メインホール框下部壁補修
チケットカウンター電話主装置設定変更
メインホールパワーアンプ修繕
空調機 PAC-19 室外機修繕
メインホール音響調整卓モニター修繕

(6) ミュージックサロンの運営など

命名権契約を踏まえた施設運営として、適切な名称の使用や無償使用権への対応、広報スペースの運用等の命名権契約に定められている点を踏まえた運営に努めました。なお、広報スペースの一部である、音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」については、令和4年度は約6箇月間展示を実施しました。イベントに関しては、「ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート」1回をオンライン配信（ライブ、アーカイヴ）し、多くの方にお届けしました。

実績 来場者数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
来場者数の実績値	9,440名	9,964名	—	2,343名	2,970名

令和4年度ミュージックサロン 開催内容

事業期間	事業名・内容等	入場者数
9月13日（火）～ 12月4日（日）	【展示】 オペラの扉 2022 ～ KNOCKING ON THE DOOR、OPERA EXHIBITION ～プッチーニのヒロインたち	1,508名
12月25日（日）	【オンラインコンサート（無料・ライブ配信）】 ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 阪田知樹が贈る、ピアノで巡る世界旅行	1,330名 (生配信視聴者数)

令和5年 1月14日(土)～ 3月26日(日)	【展示】 小澤征爾音楽塾展 2023	1,462名
-------------------------------	-----------------------	--------

4 事業執行体制等に関すること

(1) 人材の確保、配置、研修等

ア 職員数

提案書記載の計画をもとに、下記の体制で運営にあたりました。

区分	計画	令和4年度(4/1現在)
副館長	(1)名	1名
総務部長	(1)名	—
管理担当	(14)名	14名
事業担当	(9)名	10名
舞台担当	(8)名	8名
計	(33)名	33名

イ 研修の実施

令和4年度の職員研修の実施実績

令和4年7月19日(火)	接遇マナー研修
令和5年1月12日(木)ほか	外部研修「リーダーシップ研修」ほか

(2) 再委託業務

特に専門性の高い分野の業務については、委託により実施しました。また、一部の業務については、利用者サービス向上の観点から、業務の安定的な実施と質の向上のため、契約期間を2箇年とし、プロポーザル型の業者選定を行っています。それぞれの委託先とは日常的な情報共有や定期的な協議などにより、業務を円滑に実施できるよう努めています。

主な委託業務は下記のとおりです。

委託内容	受託業者	業務内容
舞台管理運営業務 (2箇年契約)	京滋舞台芸術事業協同組合	ホールの舞台、照明、音響の進行及び運営管理(舞台設営・撤去、舞台設備管理等)
会場案内・場内整理業務 (2箇年契約)	株式会社コングレ	会場案内・場内整理等
施設・設備の保守管理業務 (2箇年契約)	近建ビル管理株式会社	施設・設備の保守・管理(電気設備・空調設備・給排水衛生設備・消防設備・その他建物に付属する機器等)

清掃業務 (単年契約)	株式会社タクミサービス	施設・敷地内の日常清掃（ホール内、各 部屋、トイレ、ゴミ収集、屋外等）・定 期清掃（トイレ、床、ガラス窓）
警備業務 (単年契約)	国土警備保障(株)	施設屋内外の人的警備

5 収支に関すること

利用料金収入は、貸館事業において興行プロモーターの利用が戻ってきたこと等によってコロナ禍以前の数値となり、目標額を達成することができました。支出においては、資材価格や光熱水費の大幅な高騰により大きな影響を受けましたが、京都市から指定管理料の増額措置を受けることができたため、最終的な収支差額は0円となりました。

	令和4年度(千円)	
	予算	決算
収入の部		
指定管理料	357,344千円	370,372千円
利用料金収入	339,994千円	343,413千円
事業収入	223,577千円	205,186千円
その他収入	73,783千円	94,698千円
収入計	994,698千円	1,013,669千円
支出の部		
人件費	295,026千円	304,801千円
事業費	318,306千円	305,144千円
物件費	376,366千円	403,724千円
光熱水費	66,000千円	90,454千円
その他支出	310,366千円	313,270千円
支出計	989,698千円	1,013,669千円
収支差額	5,000千円	0円

6 まとめ

新型コロナウイルス感染症は、その発生からこれまでの間に、医療的な知見の蓄積やワクチン接種の進展により、一定程度の重症化抑止が図られてきており、令和4年度については回復の傾向にありつつも、以前のような水準までは回復が難しい状況でしたが、そのような中であって、ロームシアター京都においては、日数利用率や利用料金収入といった実績は、概ねコロナ前に近い結果を残すことができました。

自主事業においては、各事業の目的に沿った多様な事業を数多く実施し、令和2年度・3年度に中止となった事業の待望の延期公演も実現することができました。コロナ禍によって長く文化芸術に触れることができなかつた時期がありましたが、自主事業や興行プロモーター等による公演も回復していく中で、劇場での鑑賞を心待ちにされている皆様の期待に応えられるよう安全、安心で快適な劇場空間を提供することができました。しかしながら、自主事業ではコロナ禍を経

て若年層の舞台芸術への関心が低下していると感じる状況があり、今後の取組課題であると考えています。

賑わいスペース事業の店舗等の運営では、催しの有無に関わらず施設への来館者も多く、賑わいが戻ってきた一年となりました。岡崎地域の関係施設等とも連携し、こうした賑わいを地域の価値向上にさらに結び付けられる工夫が必要であるとともに、新たな利用に結び付くような取組も進めていくことが重要であると考えています。

リニューアルオープンから7年目を迎えたロームシアター京都は、施設・設備も補修や修繕が必要となり始めていることから、施設としての機能を適切に維持するため、所有者である京都市による施設・設備の修繕のほか、ロームシアター京都としても利用者や観客、また、スタッフ等の安全面や快適性を視野に入れた機能向上に引き続き取り組んでいくことも重要と考えています。

また、ロームシアター京都は、令和4年度に8年間の指定管理者として前期期間の最終年度を迎えました。そのため前期の取組の成果・課題等を検証し、後期の指定管理業務に活かすことを目的として、外部有識者から構成される中間評価委員会を設置し、ロームシアター京都の指定管理期間前期（令和元～3年度の3年間）の業務に関する中間評価を行いました。

多くの方が同時に空間を共有する場であるロームシアター京都においては、施設や催しの特性に応じた適切な対策を実施し、文化芸術の創造・発信拠点としての役割を確実に担っていくことで、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくことが重要と考えています。

今後とも、業務の評価についての視点を常に持ちつつ、社会状況の変化にも確実に対応し、各事業や各業務を着実に進めていくことで、指定管理業務における目標の達成に向けた施設運営を行ってまいります。